

p124 「一問一答」

1. ジフェニドール塩酸塩は、自律神経系の混乱を軽減させる目的で乗物酔い防止薬に配合されることがある。
2. メクリジン塩酸塩は専ら鎮暈薬に用いられる抗ヒスタミン成分で、作用発現は遅いが、作用持続時間は長い。
3. ジメンヒドリナートは、ジフェンヒドラミンテオクル酸塩の別名である。
4. 抗コリン成分のスコポラミン臭化水素酸塩水和物では、副作用として散瞳による目のまぶしさや目のかすみがみられることがあるため、服用後の運転はしないこととされている。
5. 抗コリン成分であるスコポラミン臭化水素酸塩水和物は、消化管から吸収されやすく、抗ヒスタミン成分であるメクリジン塩酸塩と比べて作用の持続時間は短い。
6. アミノ安息香酸エチルは局所麻酔成分で、胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげることを目的として配合されることがある。
7. アミノ安息香酸エチルを含む乗物酔い防止薬は、3歳未満の小児には服用させないこととされている。
8. ジプロフィリンは、甲状腺機能障害又はてんかんの診断を受けた人では、症状の悪化を招くおそれがある。
9. 乗物酔い防止薬には、主として吐きけを抑えることを目的とした成分も含まれるため、つわりに伴う吐きけへの対処として使用することが推奨されている。

【解答】

1. × ジフェニドール塩酸塩は、前庭神経の調節作用や内耳への血流改善作用を期待して乗物酔い防止薬に配合されることがある（抗めまい成分）。

2. ○

3. ○

4. ○

5. ○

6. ○

7. × メトヘモグロビン血症のおそれがあるため、6歳未満の小児には服用させないこととされている。また、3歳未満では乗物酔いが起こることはほとんどないため、3歳未満に適応のある乗物酔い防止薬はない。

8. ○

9. × つわりに伴う吐きけに用いるのは適当でない。